

履修履歴データ利活用一般化事業

【お問い合わせ】
株式会社大学成績センター
辻 太一朗
info@dscenter.co.jp

株式会社大学成績センター
(一般社団法人日本オープンオンライン教育推進協議会)

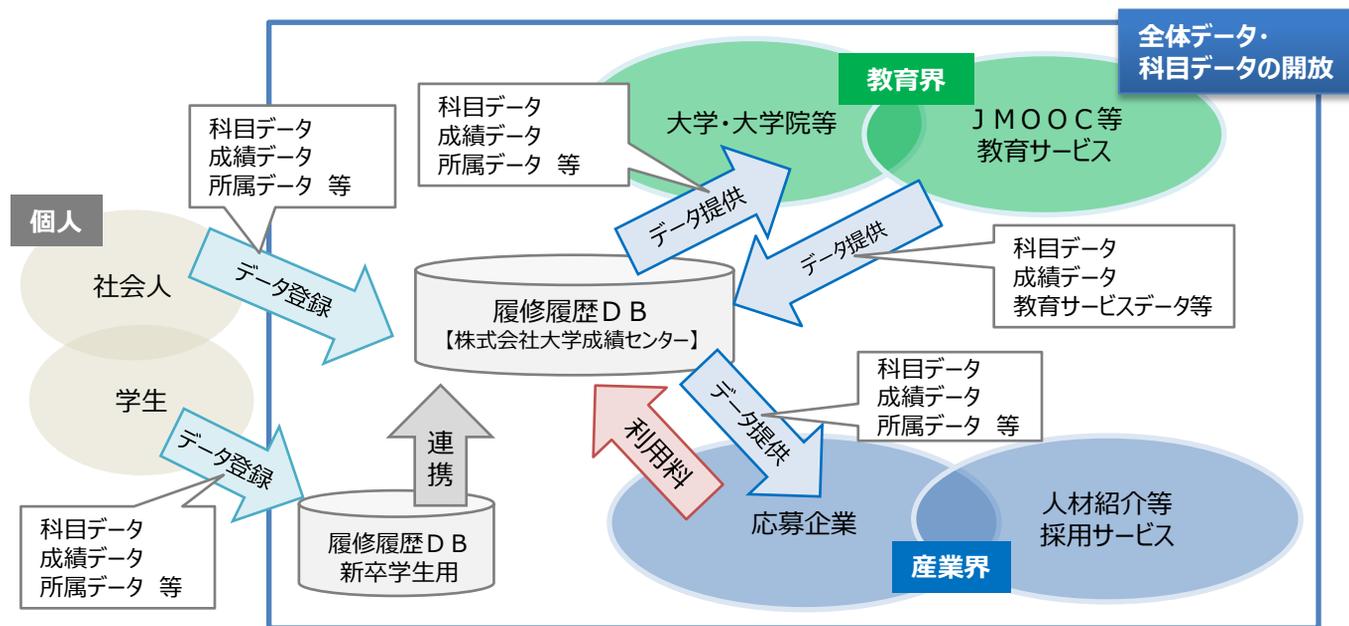
事業概要

現状、履修履歴データの利用は一部企業の新卒採用場面の利用に限られており、個人にとっては新卒の就活時に登録しただけで入社後は活用出来ない状態になっている。この履修履歴データを社会人になってからも利用出来るようにすることで、新卒採用に加え、育成・中途採用など多面的で継続的な履修履歴の利活用が広がり、企業のIT系人材の育成やリカレント教育が促進される。

また、IT系人材のスキルを科目レベルで分解した上で結果を公開し、同時に一部の科目をJMOOCで提供することで、履修履歴データを活用した採用・教育サービスの参入が図られる。

事業モデル

履修履歴のデータ化により、出身学部・学科を越えて、科目及び修得レベルから個人の知識スキルを特定が可能。その履修履歴データを社会人以降でも継続的に活用できるようにし、企業が人材マネジメント・中途採用等に共用基盤を構築、また個人情報以外の全データを無償で提供することで、多様な教育サービスや採用サービスの参入を促進する。



データ利用イメージ

企業では、新卒・中途採用時の選考がより精緻に実施でき、入社後も配属や社内教育など継続して人材マネジメントに利活用できる。

新卒採用時（学生から収集）

履修科目と評価を採用面接で活用。

人事データとして集積・管理

| 学校 | 講義名 | 評価 | 割合 |
|-------|-----------|----|-----|
| ▽大学 | 機械学習A | A | 15% |
| ▽大学 | ディープラーニング | A | 5% |
| ▽大学 | データベース | A | 21% |
| JMOOC | データマイニング | B | 35% |

社内の業務経歴 + 履修科目と修得レベル

社員A
社員B
社員C

中途採用時（応募社会人から収集）

大学および社会人以降での履修科目と修得レベルを確認。

【従来】職務経歴に不足があると採用できない

【データあり】知識で不足を補えれば採用可

科目と修得レベルから職務経歴の不足を十分に補えると判断出来れば有望な人材を採用することができる。

| 社員番号 | 学校 | 講義名 | 評価 |
|-------|-----|----------|----|
| 10425 | ○大学 | プログラミング | A |
| 11026 | ○大学 | データマイニング | A |
| 11802 | ○大学 | アルゴリズム | B |

人材を紹介する企業では、本人の職務経歴に加えて、修得科目とその評価の希少性などをより強い訴求点として紹介することができる。

情報処理技術者の必要科目および該当講義リスト（無償公開）

| スキル | 学校 | 講義名 |
|------|-----|-----------|
| 人工知能 | ▽大学 | 機械学習A |
| | ▽大学 | 機械学習B |
| | ▽大学 | ディープラーニング |
| | ▽大学 | A I 演習 |

全体データ（無償公開）から各科目の評価の希少性を分析したもの

| 学校 | 講義名 | 評価 | 割合 |
|-----|-------|----|------|
| ▽大学 | 機械学習A | A | 15% |
| ▽大学 | 機械学習A | B | 68% |
| ▽大学 | 機械学習A | C | 85% |
| ▽大学 | 機械学習A | D | 100% |

紹介者の実務経験にプラスして知識の修得範囲と修得レベルをアピールポイントとして活用

| 学校 | 講義名 | 評価 | 割合 |
|-------|-----------|----|-----|
| ▽大学 | 機械学習A | A | 15% |
| ▽大学 | ディープラーニング | A | 5% |
| ▽大学 | データベース | A | 21% |
| JMOOC | データマイニング | B | 35% |

職務経歴 + 履修科目と修得レベル

より多くの企業に強い訴求点で紹介できる

不足するスキルはJMOOC等の無料オンライン講座で修得してもらう

入社後（履修したら随時更新）

業務経歴だけでなく、修得科目からも必要な素養を備える社員を容易に探し出すことができる。

例）IT系の素養のある社員を検索

本事業での実施事項

- ・履修履歴データベースを社会人へ開放するにあたっての必要機能の開発
- ・社会人用履修履歴データ利用促進
- ・情報処理技術者資格試験のスキル分解、及びJMOOCで一部授業の実験の開発

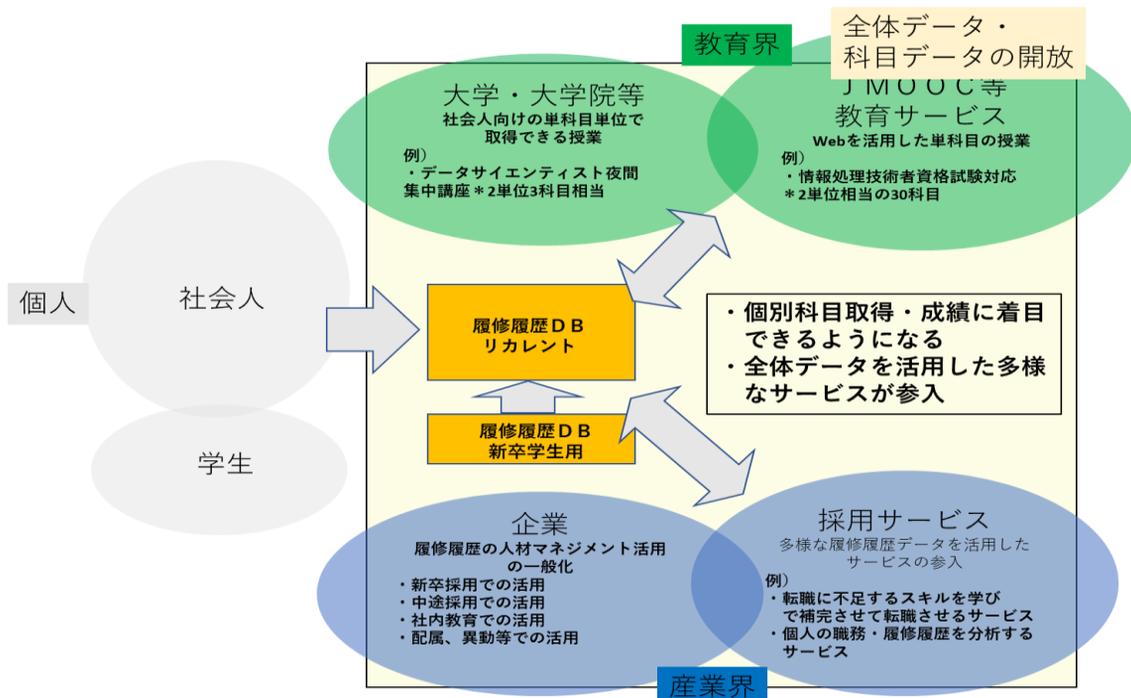
期待効果

- 履修履歴がデータ化されることで、大学・学部・学科に関係なく「科目・修得レベル」で個人のスキルが推定できる
- また、履修履歴DBが社会人にも開放されることで
- ・履修履歴データを活用した教育・採用サービスの拡充
経験+履修履歴で人材紹介
社会人向け教育コンテンツの増加 等
 - ・IT系人材の拡充、流動性の増加
 - ・個人のリカレント教育の推進 が期待できる

今後のスケジュール

2018年度は履修履歴データベースの社会人向け機能の開発を行い、次年度以降に運用を開始。個人と教育界、産業界を繋ぐハブとして社会に必要な共有基盤となることを想定。

| 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 |
|------------------------------------|-----------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|-------------------------------------------|
| 登録データ数 20万件 データ利用企業数 350社 | 登録データ数 40万件 データ利用企業数 500~700社 | 登録学生データ数 90万件 データ利用企業数 1,000~2,000社 | 登録データ数 150万件 利用企業数 3,000~5,000社 | 登録データ数 200万件 利用企業数 5,000~10,000社 |
| ・システム開発 ・情報処理系教育プログラム開発 | ・履修履歴データベース社会人向け機能の運用開始 ・情報処理系教育プログラムの運用開始 | ・若手社会人中途採用での履修履歴データ活用が広がる ・人材紹介会社での履修履歴を活用したサービスが開始される | ・社内人材マネジメントでの履修履歴データ活用が広がる ・IT系の多様な教育サービスが拡がりだす | ・社内マネジメント、採用での履修履歴データ活用が一般的になる |



ビジネスパートナー募集

本事業にご協力いただける、以下のような事業者を希望する。

【個別データ利用】採用活動等で、応募者の履修履歴データを活用したいと検討している企業

【全体データ利用】当方が保有している全体データ（個人を特定できないもの）を利用したい企業には無償で提供（所定の手続き、承認が必要）

- (活用例) ・採用、教育関連サービス企業で履修履歴を活用したサービスを検討したい
・社内の人材マネジメントに全体データの活用を検討したい